

## 根力育成プログラム小委員会

### 1. プロジェクト実習

「プロジェクト実習」は通年 2 単位の専門科目で、アクティブ・ラーニングの一つの PBL (Project Based Learning) 授業であり、A～D の 4 種類 (下記) から成る。同授業は、本学を構成する他の 4 学部に対しては勿論、連携関係にある茨城キリスト教大学・常磐大学・常磐短期大学に対しても単位互換科目として開放されている。

#### (1) 「プロジェクト実習 A : 総合」

下記 B～D のいずれにも該当しない、多様なプロジェクトの受け皿となる科目である。平成 29 年度は「アート×ヨソモノ×ワカモノ」をテーマに、「KITAIBA Art Project」チームが北茨城市のまちおこし活動に参加した。

#### (2) 「プロジェクト実習 B : 地域連携・地域貢献」

比較的遠方にフィールドを持ち、地域づくり系の活動を行うもの。平成 24 年度のプロジェクト実習開設時以来、常陸太田市里美地区を主たるフィールドとするプロジェクトが継続的に進められている。平成 29 年度は①「カボチャで里美を盛り上げ隊」チームが「若者・よそ者で里美の地域おこし活動を行う」という目的を掲げ、里美の魅力を発信するバスツアーを行った。茨苑祭では、水戸農業高等学校食品化学科の方々にご協力いただき、里川カボチャパイを販売して、里美地区の特産品の魅力を来場者にアピールした。

並行して②「Comer」チームが「農業を通して地域の方との交流をする」という目的のもと、稲刈り・おだかけ体験ツアーを実施した。また、同地区での米栽培に関わり、収穫された米を「さとみ秋の味覚祭」で販売した。

#### (3) 「プロジェクト実習 C : 国際交流・異文化理解」

「国際」「異文化」をキーワードとする活動を行うもの。平成 24 年度の「プロジェクト実習」開設以来、茨城キリスト教大学の学生チームと共同で、留学生・日本人学生・高校生の交流事業に取り組むプロジェクトが継続的に進められている。平成 29 年度は茨城大側に履修学生がいなかったため、茨城キリスト教大学生のみで構成される「D-CEP」チームの催事に茨城大の留学生と教員が参加する形で活動が行われた。

#### (4) 「プロジェクト実習 D : PBL 型インターンシップ」

通常のプロジェクト実習に、夏季休暇中等を利用して 2 日間以上のインターンシップを組み合わせたもので、平成 29 年度は次の 4 チームが活動した。①DomaineMITO 株式会社様のご指導のもと、茨城産ワインを軸にした交流イベント開催を目指す「DomaineMITO」

チーム、②みなとみらいプロジェクト実行委員会様のご指導のもと、那珂湊地区の特産品を使った「ほしいもぷりん」の販売と PR 活動を行う「チームみなと☆ミライ」、そして③④水戸市役所市長公室交通政策課様のご指導のもと、水戸の公共交通の未来を考えて活動する「AB 革命起こし隊」チームと「カフェめぐり宣伝部」チームである。前者③は水戸駅北口のバス案内板の改訂、後者④は路線バスの利用促進を図る「水戸カフェマップ」作成をそれぞれ行った。

②「チームみなと☆ミライ」は、単位互換制度を利用して履修した茨城キリスト教大学生と一つのチームを組み、両大学の学園祭や那珂湊商店街夜市で活動を行った。チームが開発に関わったほしいもぷりんは「茨城新聞」平成 30 年 1 月 10 日付で報道された。

③「AB 革命起こし隊」チームが制作に関わった新しい案内板の利用開始（平成 30 年 3 月 27 日）の様子は同日の NHK 番組「いば 6」で報道され、チームメンバーが改訂の特徴を説明する様子が放映された。また「茨城新聞」4 月 2 日付でも報道された。

授業の年間実施状況や各活動の詳細等については『2017 年度 根力育成プログラム「プロジェクト実習」活動報告書』（抜刷版を茨城大学人文学部根力育成プログラム小委員会が平成 30 年度 3 月 30 日刊行）をご覧ください。

## 2. 地域連携論 I・II

地域連携論 I は、企業経営に関してテーマを設定し、そのテーマに関して事前学習を行った上で、企業訪問を行い、現場での調査・ヒアリングを行い、それらの成果を、プレゼンする、というものである。夏季集中講義として開講した。平成 29 年度はテーマを「日本での、茨城でのものづくり」とし、株式会社小松製作所茨城工場、株式会社西野精器製作所の 2 社を訪問した。受講生は 10 名であった。同科目を通して、日ごろ現場を見る機会の少ない茨城でのものづくりの実態と、茨城でのものづくりが世界といかにつながっているのかを現場感覚を通して理解し、それを学問としてとらえ返すことで、座学と現場との往復のなかでの学習が実現できた。なお、同科目開講における企業選定に際して、(一社)茨城県経営者協会のご協力を賜った。

地域連携論 II は、後学期水曜日（2 時限目）に学部共通科目として開講した。同科目においては、地域企業・自治体等の多大なご協力の下、13 名の外部講師にご講義いただき、企業経営や自治体運営の実態や社会で働くことの意味について学生に語りかけていただいた。また、第 13 回目の講義は、「学生生活と就職活動」と題し、就職活動を経験した 4 年生が自らの経験を語り、さらに、学部 OG をスピーカーに招き、自らの学生時代と現在の職務や今後の抱負を語ってもらうなど、幅広い「茨城大学生」の交流・議論の場となった。受講生は 65 名であった。同科目の運営においては、(一社)茨城県経営者協会、および文理・人文学部同窓会の大きな協力をいただいた。さらに、1 月 10 日（水）に就職模擬面接

会を開催した。(株)常陽銀行、(株)カスミのご協力のもと、受講生が模擬面接を受け、また、就職活動に関する様々なアドバイスを頂いた。

### 3. インターンシップ

平成 12 年度に開始されたインターンシップは、平成 27 年度から、派遣先でグループ分けを行い、県庁や市役所などへのインターンシップを管轄する「公的機関」グループと、マスコミを中心とする「民間企業」グループとに分け、かつガイダンス等プログラム中の行事はなるべく共同で行うことに決定した。また一昨年度から本学のキャリアセンターが、インターンシップ先との交渉と調整、初回ガイダンスを行ってくださった。特に記して謝意を表す。委員会における担当者としては、「公的機関」は井澤・本山、民間企業は村上・清山の各教員が実施の任に当たり、事務全般については学務係の清家が担当した。平成 29 年度の活動については、5 月 10 日（水）と 17 日（水）に行った「インターンシップガイダンス」（参加人数 計 450 人以上）を皮切りに、7 月 26 日（水）の「公的機関・民間企業派遣前ガイダンス」を経て、「公的機関」ではのべ 14 名、「民間企業」ではのべ 20 名の学生がインターンシップを行った（他、プロジェクト実習においてインターンシップが実施され、17 名が参加）。報告会も、担当教員）ごとに、11 月～12 月にかけて複数回開催され、『報告書』も年度末に無事に発刊された。ここ数年、インターンシップ参加者は年々増加の一途をたどったが、平成 29 年度以降本科目には単位取得を希望する者だけが履修するということになり、その数は激減（前年度比 60%減）した。今後も変わらずまたは科目として取り扱う必要があるのか、学部否、全学挙げての再検討の必要性があろう。

### 4. ポートフォリオ

根力育成支援ポートフォリオについては、年度末に新学務情報システム導入を控えているため、データの保存と移行に万全を期すため、本年度はポートフォリオに記入せず、学生各自がエクセルファイルに記入して保管することとした。

平成 29 年度根力育成プログラム小委員会：神田大吾